

「町田市生涯学習推進計画 2019-2023」に係る 2021 年度事業実績の報告について

生涯学習部では、2019年3月に「町田市教育プラン2019-2023」で定める生涯学習施策を具現化するためのアクションプラン（行動計画）として、「町田市生涯学習推進計画2019-2023」を策定しました。生涯学習推進計画に定めた取組を着実に推進するため、年度ごとに達成状況を確認することとしていましたが、この度2021年度の事業実績がまとまりましたので、報告いたします。

- 1 取組項目 39 件
 ※うち 15 件は、「町田市教育プラン 2019-2023」に掲げる重点事業

- 2 評価方法 5 段階評価（下表参照）
 ※各取組項目の活動指標ごとに、下記の達成状況の基準によって評価しており、「2022 年度町田市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（2021 年度分）」に準じています。

評価		達成状況の基準、考え方
A	計画以上に目標を達成した	効果的で優れた取組を行い、年度目標を上回って達成し、最終年度の目標達成に向けて大きな成果があった。
B	目標を達成した	効果的な取組を行い、年度目標を達成し、最終年度の目標達成に向けて成果があった。
C	おおむね目標を達成した	年度目標には達しなかったものの、効果的な取組を行い、最終年度の目標達成に向けて一定の成果があった。
D	目標に達しなかった	取組を行い、一定の成果はあったものの、年度目標を達成することができず、最終年度の目標達成に向けて課題や問題点があった。
E	目標を大きく下回った、実施できなかった	取組を行わなかった、または行ったものの成果があがらなかった。 大きな課題や問題点があり、取り組むことが困難で滞っている。

3 意見聴取

報告にあたり、次の附属機関等から意見を伺い、内容確認を行いました。

- ・町田市生涯学習審議会
- ・町田市文化財保護審議会
- ・町田市生涯学習センター運営協議会
- ・町田市民文学館運営協議会
- ・町田市立図書館協議会

4 市民への公表

町田市ホームページに掲載。

町田市生涯学習推進計画 2019 - 2023

事業実績（2021年度分）報告

2022年8月

町田市教育委員会

目 次

1	事業実績の報告について	3
2	達成状況の評価基準	4
3	評価の対象となる取組.....	5
4	2021年度に実施した取組の事業実績	
	施策1 家庭教育を支える環境を整備する	
	取組 1-1～1-4 の事業実績.....	6
	施策2 学びのきっかけとなる機会を提供する	
	取組 2-1～2-10 の事業実績.....	10
	施策3 学習を“広げる・深める”を支援する	
	取組 3-1～3-8 の事業実績.....	20
	施策4 学習成果を活かす機会を充実する	
	取組 4-1～4-8 の事業実績.....	28
	施策5 学習を支える環境づくりを進める	
	取組 5-1～5-9 の事業実績.....	36

1 事業実績の報告について

(1) 目的

町田市教育委員会では、2019年3月に「町田市教育プラン（以下、「教育プラン」という。）2019-2023」で定める生涯学習施策を具現化するためのアクションプラン（行動計画）として、「町田市生涯学習推進計画（以下、「生涯学習推進計画」という。）2019-2023」を策定しました。「生涯学習推進計画 2019-2023」は、教育プランで定めた「重点事業」を中心に39の取組を定めています。

町田市教育委員会では、本計画に定めた取組を着実に推進するため、達成状況を年度ごとに確認し、事業実績を毎年度公表します。

(2) 新型コロナウイルス感染症による影響について

町田市教育委員会では、2020年以降、新型コロナウイルス感染症対策として、所管する生涯学習施設を休館したり、イベント等を中止したりするなど、多くの対策を講じてきました。今回評価を行った取組の中にも、影響を受けた取組が多くあります。

2021年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業を中止・延期をするという判断を余儀なくされたものもあり、一方で、感染リスクを低減させる対策を講じ、様々な工夫を重ねたうえで、事業を実施できたものもあります。

今後も、「生涯学習推進計画 2019-2023」を基本として取組みながらも、新型コロナウイルス感染症対策も含め、生涯学習を取り巻く環境の変化を十分に注視して取組むとともに、目標設定や取組に対する評価について様々な検討を行う必要があります。

2 達成状況の評価基準

各取組の評価は、活動指標ごとに、下記の達成状況の基準により行っています。

評価		達成状況の基準、考え方
A	計画以上に目標を達成した	効果的で優れた取組を行い、年度目標を上回って達成し、最終年度の目標達成に向けて大きな成果があった。
B	目標を達成した	効果的な取組を行い、年度目標を達成し、最終年度の目標達成に向けて成果があった。
C	おおむね目標を達成した	年度目標には達しなかったものの、効果的な取組を行い、最終年度の目標達成に向けて一定の成果があった。
D	目標に達しなかった	取組を行い、一定の成果はあったものの、年度目標を達成することができず、最終年度の目標達成に向けて課題や問題点があった。
E	目標を大きく下回った、実施できなかった	取組を行わなかった、または行ったものの成果があがらなかった。 大きな課題や問題点があり、取り組むことが困難で滞っている。

3 評価の対象となる取組

施策1 家庭教育を支える環境を整備する		
取組	1-1	保護者向けの学習機会の充実【◇】
	1-2	家庭教育支援の担い手育成・活動支援【◇】
	1-3	保育室を利用した家庭教育支援事業の促進
	1-4	親子でことばに触れる機会の充実
施策2 学びのきっかけとなる機会を提供する		
取組	2-1	学習情報の発信力の強化【◇】
	2-2	歴史・文化資源等を活用した出張事業の推進【◇】
	2-3	子ども読書活動の推進【◇】
	2-4	学校図書館との連携強化【◇】
	2-5	生涯学習施設の利用促進
	2-6	読書普及事業の充実
	2-7	シニア世代向け事業の充実
	2-8	障がい者サービスの充実
	2-9	図書館資料による情報提供機会の充実
	2-10	「町田ゆかりの作家」紹介事業の充実
施策3 学習を“広げる・深める”を支援する		
取組	3-1	地域の課題解決に向けた学習支援【◇】
	3-2	町田の歴史情報の提供【◇】
	3-3	「文学の扉」事業の推進【◇】
	3-4	文化財の維持・保護・復旧の推進
	3-5	文化財の公開・活用の充実
	3-6	展示事業の充実
	3-7	講座・講演会事業の充実
	3-8	レファレンスサービスの充実
施策4 学習成果を活かす機会を充実する		
取組	4-1	市民提案型事業の推進【◇】
	4-2	協働による研究・発表の推進【◇】
	4-3	地域で活動するボランティアの養成・支援【◇】
	4-4	学習成果の発表機会の支援
	4-5	生涯学習ボランティアバンク事業の推進
	4-6	障がい者の学習成果を発表する場の充実
	4-7	図書館運営の地域協働化の促進
	4-8	市民の文学活動への支援
施策5 学習を支える環境づくりを進める		
取組	5-1	支援が必要な人への学習機会の提供【◇】
	5-2	本と出会う場所の創出【◇】
	5-3	文化財の保存と活用環境の整備【◇】
	5-4	歴史・文化資源の調査・研究・保存
	5-5	図書館利用者の利便性の向上
	5-6	地域資料の活用の推進
	5-7	市民のニーズに合った図書館事業の実施
	5-8	町田の文学の継承
	5-9	文学財産の保存

◇…教育プラン重点事業

4 2021年度に実施した取組の事業実績

◇・・・教育プラン重点事業

■取組1-1 保護者向けの学習機会の充実【◇】	生涯学習センター
-------------------------	----------

事業概要	保護者を対象に、子どもの年齢や成長に応じて生じる悩みや問題の解消につなげる学習機会を提供します。実施にあたっては、保護者をはじめ学校、PTAなど幅広くニーズを調査し、事業内容に反映していきます。				
これまでの取組	0歳児・1歳児とその保護者、妊婦を対象とした「まなびのひろば事業」、乳幼児期から思春期までの保護者向けの学習講座を定期的の実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①まなびのひろば*延べ参加者数		698人	880人	
	②家庭教育講座延べ参加者数		459人	570人	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	保護者の学習機会の把握		アンケート等によるニーズ調査・事業内容への反映		
	各種学習事業の実施				
年度目標（指標①）	730人	760人	800人	840人	880人
年度目標（指標②）	480人	500人	520人	540人	570人

*まなびのひろば：生涯学習センターで実施する市内在住の0歳児・1歳児とその保護者、または妊婦を対象とした子育てに関するひろば事業。手遊びやスキンシップ遊び、絵本の読み聞かせ、保護者同士の情報交換などを行う。

＜2021年度の事業実績＞

達成状況（指標①）	D 目標に達しなかった
取組状況（指標①）	・新型コロナウイルスの影響による中止が5回ありました。また、新型コロナウイルス感染症感染拡大前は定員を設けずに実施していたところを7組に制限して実施しました。さらに2022年1月からの感染急拡大を受けて、欠席者が増えたことなどにより、参加者数は目標に達しませんでした。 ・まなびのひろばとして、きしゃポッポ及びパパと一緒にきしゃポッポを合計40回実施し、延べ参加者数（親）は184人でした。また、まなびのひろばで実施している親子のスキンシップ遊び、わらべうたを紹介する動画5本を子育てサイト上で公開し、延べ986回のページアクセスがありました。
達成状況（指標②）	D 目標に達しなかった
取組状況（指標②）	・新型コロナウイルス感染症対策として、定員を約8割に制限して実施しました。さらに2022年1月からの感染急拡大を受けて、欠席者が増えたことなどにより、参加者数は目標に届きませんでした。 ・家庭教育講座では、乳幼児から思春期までの保護者向け講座を合計25回実施し、延べ参加者数は324人でした。
課題	・社会環境の変化やライフスタイルの多様化などに対応するため、引き続き参加者以外からも市民の意見を聴収し、事業内容に反映していく必要があります。 ・新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、安心して参加いただくための参加人数の制限も必要となっています。
今後の取組の方向性	・2022年2月に策定した「町田市生涯学習センターのあり方見直し方針」に基づき、事業の見直しを行います。 ・講座終了後に配布するアンケートに加え、アンケートフォームも活用し、保護者のニーズを調査します。また、アンケート結果を参考にしながら、実施内容に反映していきます。 ・感染状況や社会情勢の変化に応じて、なるべく多くの方が安心して参加できるよう、感染防止対策や人数制限等を適宜見直ししながら事業を実施します。

■取組1-2 家庭教育支援の担い手育成・活動支援【◇】	生涯学習センター
-----------------------------	----------

事業概要	まなびのひろば事業や子育て講座などの学習機会を地域で展開できるよう、担い手を育成します。実施にあたっては、関係機関と連携しながら、ニーズの把握、育成プログラムや修了後の活動拠点などの検討を進め、家庭教育支援の充実を図ります。				
これまでの取組	家庭教育支援の担い手を育成する事業として「家庭教育支援学級」を実施しています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①担い手育成事業修了者数（累計）	31人	164人		
	②修了者が企画した学習事業数	3事業	5事業		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	育成プログラム及び活動支援手法の研究		担い手育成事業の実施 修了者の活動支援の実施		
	修了者が企画した学習事業（3事業）実施		修了者が企画した学習事業（4事業）実施	修了者が企画した学習事業（5事業）実施	
年度目標（指標①）	31人	62人	95人	129人	164人
年度目標（指標②）	3事業	3事業	4事業	4事業	5事業

<2021年度の事業実績>

達成状況（指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標①）	・担い手育成事業では、保護者のための各学習講座卒業生で構成されるゼミや家庭教育担い手育成事業を合計で47回実施し、18人が新たに修了者となりました。修了者数は、2020年度までの74人と合わせて、累計92人です。 ・修了者が継続して活動を行いやすいよう、保育室等の活動場所を提供する支援を行い、計19回の利用がありました。
達成状況（指標②）	B 目標を達成した
取組状況（指標②）	・修了者が企画した学習事業は「子育てフリースペースカフェつばめ」「スマイルパーティー～スマイルママ親子ひろば～」「みんなでしゃべろう」「児童期から思春期の心と性講座」の4事業でした。 ・修了者の活動を活性化することを目的とした修了者同士の交流会を開催し、5団体12名の参加がありました。
課題	・担い手育成事業の参加者を増やし、修了者を確保していく必要があります。 ・講座修了後、職場復帰や再就職等のため、活動の継続が難しい方が増えています。引続き活動に参加できるよう、支援していく必要があります。
今後の取組の方向性	・2022年2月に策定した「町田市生涯学習センターのあり方見直し方針」に基づき、事業の見直しを行います。 ・修了者が地域での活動を継続して行えるよう、保育室の提供や活動相談などの支援を行います。 ・東京都公民館連絡協議会保育研修会を通して、他市との情報交換を行います。 ・コロナ禍でも安心して参加できるよう、消毒をこまめに行うなど、感染防止対策を行って事業を実施します。

■取組1-3 保育室を利用した家庭教育支援事業の促進	生涯学習センター
----------------------------	----------

事業概要	子育て中の市民が親子向けイベントや講座により多くの参加機会を得られるよう、また自ら活動することができるよう、市民活動団体や市の各部署に働きかけを行い、生涯学習センターの保育室を活動の場とした家庭教育支援事業の促進を図ります。				
これまでの取組	保育室は、生涯学習センターが直接事業に使用するほか、ホールや学習室等で市民の学習活動がある際に補助的に利用されています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）		目標値（2023年度）
	保育室の年間施設利用回数		280回		380回
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	情報収集 周知方法の 検討	検証	検証結果に基づく周知活動の見直し		
	市民活動団体への周知・市の各部署との調整				
年度目標	290回	300回	320回	350回	380回

<2021年度の事業実績>

達成状況	D 目標に達しなかった
取組状況	・ホールや学習室等で市民の学習活動がある際の補助的な保育室の利用や生涯学習センター主催事業による利用のほか、家庭教育支援事業修了者への支援を拡充し活動の場として提供しました。 ・保育室を活動の場とした家庭教育支援事業について、まちだ子育てサイトやツイッターによる情報発信を行いました。 ・新型コロナウイルスの影響により施設の休館や開館時間の短縮を行い、また、開館中もおやつ等飲食の一部制限を行ったうえで施設を提供しました。保育室の年間利用回数は186回（2020年度151回）、利用人数は1,730人（2020年度1,382人）といずれも2020年度に比べ上昇しましたが、目標値には達しませんでした。
課題	・家庭教育支援の担い手育成のため、事業の参加者を増やしていく必要があります。 ・講座修了後、職場復帰や再就職等をする方が増えています。働きながら活動の継続をするための支援が求められています。 ・保育という特性上、一定の制限が必要となるなど、新型コロナウイルスの影響を受けやすく、感染状況に留意する必要があります。
今後の取組の方向性	・2022年2月に策定した「町田市生涯学習センターのあり方見直し方針」に基づき、事業の見直しを行います。 ・家庭教育支援事業修了者が自主的な活動を継続して行えるよう、活動場所として保育室の提供や活動相談などの支援を行います。 ・コロナ禍でも安心して参加できるよう、消毒をこまめに行うなど、感染防止対策を行って事業を実施します。

■取組1-4 親子でことばに触れる機会の充実	文学館
------------------------	-----

事業概要	子どもたちの感受性を育むことができるよう、わらべ唄遊びや絵本の読み聞かせ、ことば遊びなどを通して、コミュニケーションの基本・文学への入り口となる「ことば」に触れる機会を提供します。保護者にもその楽しさを体験してもらうことで、家庭での教育や親子のコミュニケーションに活かせる内容となるよう実施します。実施にあたっては、参加者のニーズを把握し、事業内容に反映していきます。				
これまでの取組	0～4歳児とその保護者を対象にわらべ唄や絵本の読み聞かせを行う「ちちんぷいぷい」、「2歳児あつまれ!」、「3・4歳児あつまれ!」を実施しています。また、3歳から小学生の子どもとその保護者を対象に、リトミックとことば遊びを取り入れた「クリスマスおたのしみ会」を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	乳幼児から小学生とその保護者を対象とした事業数		7事業	9事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	アンケート等による ニーズの把握		ニーズの事業への反映		
	各種学習事業 （7事業）実施		各種学習事業 （8事業）実施		各種学習事業 （9事業）実施
年度目標	7事業	7事業	8事業	8事業	9事業

＜2021年度の事業実績＞

達成状況	D 目標に達しなかった
取組状況	・新型コロナウイルス感染症の感染状況をみながら乳幼児向け事業「ちちんぷいぷい」「2歳児あつまれ!」「3・4歳児あつまれ!」や、保育付事業「紙芝居・大人の時間」、保護者向け事業「絵本読み聞かせのコツを教えます!」の初級者編、中級者編の6事業を実施しました。 ・事業の実施に際しては、広い会場に変更し換気に努め、定員を減らす等、密閉・密集・密接を避けた環境を整えました。また、受付時に検温・手指消毒を徹底して参加者が安心して参加できるよう配慮しました。
課題	・「紙芝居・大人の時間」では、高齢者や乳幼児の親への新型コロナウイルス感染拡大の懸念から中止にすることが多かったため参加者数が一定化しませんでした。安定した参加者を確保できるよう、市民にわかりやすい中止基準を定める等の対策が必要です。 ・「絵本の読み聞かせのコツを教えます!」では、想定とは異なる高齢者層の参加が多い結果となりました。事業の目的や対象を明確化し、ターゲットに届くPR方法を検討する必要があります。
今後の取組の方向性	・事業内容やその対象者に応じ、ウィズコロナ時代に即した事業形態を構築します。 ・参加者のニーズを把握し、事業の目的や対象を明確化した事業を企画します。

■取組2-1 学習情報の発信力の強化【◇】	生涯学習センター
-----------------------	----------

事業概要	学習情報をより多くの市民に提供できるよう、町田市ホームページモバイル（スマートフォン版）の学習情報誌「生涯学習NAVI」の利用促進を図ります。さらに、他団体で発信している情報誌やホームページなどの情報発信媒体との連携を図り、情報発信力を強化します。				
これまでの取組	ホームページや「生涯学習NAVI」の内容を見直しました。また、学習情報に関するポータルサイトの構築に向けて検討しました。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①スマートフォン版「生涯学習NAVI」の利用促進に向けた取組の実施	未実施	実施（2020年度）		
	②新たな情報発信媒体の活用	未実施	活用（2021年度）		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	利用促進に向けた手法の検討	スマートフォン版「生涯学習NAVI」利用促進に向けた取組の実施・検証			
	情報発信媒体の把握・検討	媒体活用に向けた調整	新たな媒体の活用・検証		
年度目標（指標①）	検討	実施・検証	実施・検証	実施・検証	実施・検証
年度目標（指標②）	情報発信媒体の把握・検討	媒体活用に向けた調整	活用・検証	活用・検証	活用・検証

<2021年度の事業実績>

達成状況（指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標①）	・スマートフォン版「生涯学習NAVI」の町田市HPへの掲載に加え、多摩地域の暮らしに役立つ広報誌などの電子ブックや地域情報記事を発信するサイトである「TAMA ebooks」と連携し、同社HPに電子書籍版「生涯学習NAVI」の掲載を開始するとともに、同社HPのパナーを生涯学習センターHPに設置しました。 ・二次元バーコードを記載したスマートフォン版「生涯学習NAVI」のPRカードを図書館やぽっぽ町田等で配布しました。 ・原町田地域のイベント特集や、デジタル学習特集を行い、普段手に取らない方に興味を持ってもらえるよう紙面の充実を図りました。
達成状況（指標②）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標②）	・スマートフォン版「生涯学習NAVI」について、「TAMA ebooks」と連携し、電子書籍版「生涯学習NAVI」を刊行しました。
課題	・「生涯学習NAVI」の発刊について、従来の紙媒体からデジタル媒体への意向を検討する必要があります。 ・新たな発信媒体について、他自治体などの発信方法等を参考に、引き続き研究していく必要があります。 ・デジタル化を推進する一方で、デジタルデバイドにも留意し、必要とする全ての方に情報が届くよう配慮が必要です。
今後の取組の方向性	・スマートフォン版「生涯学習NAVI」での取り組みを活かし、更なる情報発信力の強化を図るため、デジタルの活用に取り組みます。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、集合形式の講座・イベント等の開催が難しくなっているため、インターネットを利用したイベントの開催や動画配信等による学習コンテンツの紹介、集合形式とオンライン形式を合わせたハイブリッド形式等、市民の安全・安心に配慮した学習機会と情報の提供を行います。 ・庁内外の生涯学習の担い手と連携し、PRの相乗効果を目指します。

■取組2-2 歴史・文化資源等を活用した出張事業の推進【◇】	文化財係・自由民権資料館・文学館
--------------------------------	------------------

事業概要	町田市の歴史や文化についてより多くふれてもらえるよう、学校や子どもセンターでの講座や市民センターなどでの展示の実施、他部署が主催するイベントへの参加など、歴史・文化に関する資源や情報を活用した学習事業を様々な地域で展開します。				
これまでの取組	- 生涯学習総務課では、市庁舎イベントスタジオでの東京文化財ウィークに合わせた企画展示や青少年施設ひなた村などでの文化財の展示を行うほか、自治体主催の歴史講座や大学の講義、中学校の歴史の授業などでの出張講義を行っています。 - 文学館では、小学校での出張講座として、町田ゆかりの俳人の紹介と俳句クイズを行う「俳句であそぼう！」や、市庁舎イベントスタジオでの出張展示を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）		目標値（2023年度）
	出張事業（展示・イベント・講座等）の実施件数		28件		40件
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	事業内容の検証		検証を踏まえた新たな事業の実施		
	出張事業の実施及び周知、関係機関への働きかけ				
年度目標	30件	32件	34件	37件	40件

<2021年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	町田市の考古・歴史・民俗資料及び文学に関する出張事業を46件実施しました。 - アウトリーチ展示、自由民権資料館に係る講演会、地域の史跡などをめぐるフィールドワーク、地域の歴史に関する出張授業など、36件の事業を実施しました。 - ショートショート書き方講座、宮沢賢治についての出張授業、町田市民文学館15周年記念ポスター展など、10件の事業を実施しました。
課題	- 新型コロナウイルスの影響で出張事業を実施する場所、方法に制約を受けるなかで、感染対策の徹底と実施先の多様化を図る必要があります。 - 出張授業を継続的に行うために教員と連絡を密にとり学校のニーズを把握することが必要です。 - 学校の授業で活用できる資料を充実させる必要があります。
今後の取組の方向性	- 感染対策を講じながら、様々な年齢層にアプローチできる実施場所、方法を検討します。特に小中学校における出張事業を重点的に進めます。 2021年度から実施の「ことばらんどショートショートコンクール」と連動した出張授業を引き続き実施するとともに、学校のニーズに合った出張授業を行います。 - 玉川大学との協働により、中学校での出張授業用資料を作成します。

■取組2-3 子ども読書活動の推進【◇】	図書館
----------------------	-----

事業概要	生涯にわたって主体的に読書をする習慣を身に付けることができるよう、子ども読書活動の推進に関する全市的な取組をまとめた「第四次町田市子ども読書活動推進計画（2020年度～2024年度）」を策定・推進します。特に、子どもの読書活動に合わせた図書資料の充実とともに、小学校英語の教科化などの動向を踏まえ、外国語の絵本・児童書等を重点的に整備します。				
これまでの取組	第三次町田市子ども読書活動推進計画（2015年度～2019年度）に基づき、庁内各部署で計32の取組を実施するとともに、計画の進捗管理を「子ども読書活動推進計画推進会議」を通じて行っています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①第四次町田市子ども読書活動推進計画の策定	第三次計画に基づく事業の実施	策定完了（2019年度）		
	②外国語の絵本・児童書の蔵書数	3,966冊	6,500冊		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	第四次計画の策定	第四次計画に基づく事業の推進 推進会議を通じた事業の進捗確認の実施			
	外国語の絵本・児童書の計画的購入・活用 利用状況等の検証				利用状況等の検証
年度目標（指標①）	第四次計画の策定完了	事業の推進 進捗確認	事業の推進 進捗確認	事業の推進 進捗確認	事業の推進 進捗確認
年度目標（指標②）	4,500冊	5,000冊	5,500冊	6,000冊	6,500冊

<2021年度の事業実績>

達成状況（指標①）	B 目標を達成した
取組状況（指標①）	・町田市子ども読書活動推進計画推進会議を開催し、事業の進捗確認を行いました。
達成状況（指標②）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標②）	・外国語児童書の充実にもつたふるさと納税を導入するなどして外国語の絵本・児童書の蔵書数が約6,100冊となり目標値を大きく上回りました。 ・外国語の絵本・児童書を活用するため、英語多読講演会を2回実施しました。また、英語多読を定着させるため、2021年7月に結成された市民による多読サークルの伴走支援を行いました。
課題	・町田市子ども読書活動推進計画推進会議について、さらに活発な意見交換ができるよう進行方法について検討する必要があります。 ・「英語多読コーナー」を地域館へ拡大するため、まだ設置していない館の書棚の確保や資料の整備等課題の洗い出しをする必要があります。
今後の取組の方向性	・「英語多読コーナー」を地域館へ拡大するため、各館の書棚を確保すると共に外国語の絵本・児童書について計画的な購入を継続します。 ・市民による多読サークルを引き続き支援します。

■取組2-4 学校図書館との連携強化【◇】	図書館
-----------------------	-----

事業概要	小・中学校の学校図書館への支援や子どもの読書活動を充実させるために、図書館から学校図書館への貸出のしくみを改善するなど、支援方法を見直して、学校図書館と図書館との連携を強化します。				
これまでの取組	さるびあ図書館を拠点に、「学校図書館支援貸出」（しらべ学習等に対応して、図書館が選書を行って提供する）により、小・中学校の学校図書館へ本を車で配本するサービスを行っています。また、学校図書指導員への研修に協力しています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①学校図書館支援貸出利用校数	35校	42校		
	②学校図書館支援貸出数	3,768冊	4,500冊		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	学校図書館支援貸出の実施				
	新たな支援 内容の検討	貸出方法等の改善 新たな支援の実施			支援内容 の検証
年度目標 (指標①)	35校	37校	39校	40校	42校
年度目標 (指標②)	3,800冊	4,080冊	4,220冊	4,360冊	4,500冊

<2021年度の事業実績>

達成状況 (指標①)	D 目標に達しなかった
取組状況 (指標①)	・学校図書館支援貸出は、28校が利用しました。新型コロナウイルスの影響により休館・休校、授業編成変更等があり、利用は少なくなりました。 ・教員・図書指導員の研修会では、連携サービスの紹介・利用案内のほか、図書指導員等から要望のあった「図書の選書方法」、「おすすめ本紹介」を講義しました。 ・学校・学校図書館への連携サービス改善のため、調査やヒアリング等の検討・準備をしましたが、実施までには至りませんでした。 ・「テーマ別貸出セット」構築のため、資料を追加購入しました。
達成状況 (指標②)	D 目標に達しなかった
取組状況 (指標②)	・学校図書館支援貸出の冊数は、2,535冊でした。
課題	・学校図書館とのコミュニケーションを深め、更なるニーズ把握に努める必要があります。
今後の取組の 方向性	・学校図書館について、調査やヒアリング等を行い、学校ごとの状況を把握し、各学校のニーズにあったサービスの提供に努めます。 ・学校図書館支援貸出、研修会協力、移動図書館訪問サービス、団体貸出資料の配本サービス等を引き続き行い、学校図書館への支援と連携に努めます。

■取組2-5 生涯学習施設の利用促進	文化財係・自由民権資料館・ 生涯学習センター・ 図書館・文学館
--------------------	---------------------------------------

事業概要	より多くの市民に生涯学習施設を知ってもらい、幅広い世代の利用につながるよう、リーフレットやホームページ、SNSを利用した情報発信のほか、各施設の相互PRをはじめ、市内外の各機関と連携したPR活動を進めます。			
これまでの取組	リーフレットやホームページ、SNSを利用した情報発信を行っています。			
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①連携して行うPR活動件数	4件	10件	
	②SNS発信数	219回	800回	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	新たな連携先の検討・調整	新たな連携先とのPR活動の実施	検証	検証結果に基づくPR活動の見直しと実施
	SNSを利用した情報発信			
年度目標（指標①）	5件	6件	7件	8件
年度目標（指標②）	520回	610回	670回	720回

<2021年度の事業実績>

達成状況（指標①）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標①）	各施設等において、下記のとおり合計21件の連携PR活動を実施しました。 ・自由民権資料館：文学館、堺市民センターでの出張展示解説（2件）。中央図書館での特集コーナー設置（1件）。 ・生涯学習センター：考古資料室と連携によるHP掲載動画の作成、民間HPへの講座情報掲載、人権週間での事業PR、中央図書館での特集コーナー設置、地区協議会と連携しての講座実施、市民センター等でのなんでもスマホ相談室の実施（7件） ・図書館：3R推進課のスクルトンごみ収集車と移動図書館の合同訪問、移動図書館車の保育園、幼稚園、子どもクラブへの出張訪問、移動図書館車の町田シバヒロや大地沢青少年センターでのイベント参加、さがまち学生Clubとの協働による移動図書館のPR動画作成（6件） ・文学館：広報課との連携による「『ポケふた』ミニ展示」、「のりものえほん展」における交通事業推進課との連携によるバスの絵展示及び商店会との連携によるジオラマ展示、町田モディでの出張展示、「ことばらんどショートショートコンクール」における小中学校への出張授業（5件）
達成状況（指標②）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標②）	・各施設等において、施設の開館情報や講座・展覧会・イベント情報など合計2,392件のSNSによる発信を実施しました。 ・文学館ではTwitterで短歌作品の募集を行うなど情報発信に留まらないSNSの新たな活用に取り組みました。
課題	・各種イベントのターゲットそれぞれに効果的なSNSの研究と、発信内容や回数についてさらなる改善が必要です。 ・より多くのフォロワー及び「いいね」やリツイートで表現される反応を獲得できるよう、効果的なツイートの発信内容を検討する必要があります。
今後の取組の方向性	・幅広い世代の利用につながるよう、リーフレットやHP、SNSを利用した情報発信のほか、各施設の相互PRをはじめ、連携施設とのPR活動を検討していきます。 ・動画の活用等、中高生にも親しんでもらえるコンテンツの提供を検討します。 ・HP、Twitterに加え、Instagramの効果的な活用を進めていきます。 ・町田デジタルミュージアムと連携し、発信力を強化します。

■取組2-6 読書普及事業の充実	図書館
------------------	-----

事業概要	インターネットやスマートフォンの普及により、読書量が減っていると言われてい ます。小学生以下の子どもの読書のきっかけとなる事業や、中高生を対象とした図書館 に足を運ぶきっかけとなるイベントを行うなど、18歳以下へ向けた取組を強化しま す。				
これまでの取組	小学1年生を対象に「としょかんいちねんせい*」を実施しました。小学校高学年、 中学生、高校生を対象にPOP（本の紹介カード）を応募する「まちだライブ・ラ リー」を実施しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	18歳以下の方の利用登録 につながる事業数		2事業	4事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	事業の 実施・ 検討	3事業実施		4事業実施	
			事業内容 の検証		事業内容 の検証
年度目標	2事業	3事業	3事業	4事業	4事業

*としょかんいちねんせい：公立小学校の新1年生に引換券（兼・利用登録用紙）を配布し、図書館・文学館に引換券を持参した児童にカードケースを贈る事業。

<2021年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	以下の8事業を実施しました。 ・「としょかん1ねんせい」事業では、図書館に登録・更新した505名へミニプレゼントを渡しました。 ・小学生から高校生までを対象に、文学館と共催で「ことばらんどショートショートコンクール」を開催し、939点の応募がありました。関連イベントとして中央図書館で「絵本づくりワークショップ」を開催し、4名の参加がありました。 ・子どもが本に親しむための取り組みのひとつとして、5、6歳から小学校低学年を対象とした「読書手帳」を配布しました。 ・「小学生向け講座～ちよっぴり図書館員になってみよう！」を実施し、13名の参加がありました。 ・YA世代*を対象に、一日図書館員を実施し、4日間で延べ13名の参加がありました。 ・青少年映画会「Yシネマ」を実施し、対象年齢層2名を含む18名の参加がありました。 ・YA世代を対象に謎解きレファレンス講座「まちクエ2021*」を実施し、4名の参加がありました。 ・中央図書館で、土日祝日に中高生向けグループ学習室「わいわいキャレル」を実施しました。103日間で165組の利用がありました。
課題	・中高生のイベント等への参加者数が伸びない事業に関して、開催方式や効果的なPR方法について検討する必要があります。
今後の取組の方向性	・図書館利用の少ない中高生のニーズを把握するため、「町田創造プロジェクト（MSP）」メンバーや子どもセンターの運営委員、読書活動に積極的に取り組む学校、さがまちコンソーシアム（さがまち学生Club）などと意見交換を行う機会をつくり、中高生が図書館事業に参加できる仕組みについて引き続き検討します。

*YA世代：ヤングアダルト世代の略で、中学生から大学生ぐらいの年齢層を想定。

*まちクエ2021：まちだクエストの略。謎解きゲームを通じ図書館内を巡ることで、図書館の基本的な構造や、本を借りるだけではない図書館の便利な使い方を体感してもらうイベント。

■取組2-7 シニア世代向け事業の充実	図書館
---------------------	-----

事業概要	いつでもだれでも気軽に利用できるという図書館の強みを活かし、地域の図書館で認知症予防の講座を市民と協働して実施するなど、シニア世代が住み慣れた地域でいきいきと健康に暮らしていくための取組を行います。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	シニア世代を対象とした事業数		未実施	2事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	実施検討	1事業実施		2事業実施	
			事業内容の検証		事業内容の検証
年度目標	実施検討	1事業	1事業	2事業	2事業

<2021年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	以下の3事業を実施しました。 ・ことぶき大学まちだ探・探ゼミナールにおいて、講座「図書館を活用した調べ学習」「著作権/出典・引用の扱い」を中央図書館にて実施しました（生涯学習センターとの共催）。 ・さるびあ、鶴川駅前、鶴川、木曽山崎、堺の各図書館及び移動図書館にて、シニア世代向け特集や認知症関連図書の特集展示等を行いました。 ・デジタルデバインド（情報格差）の解消に向けた講習会「はじめてのスマホ体験」を中央図書館で3回実施し、42名の参加がありました。
課題	・シニア世代向けの特集展示について、引続き各図書館で実施していく必要があります。 ・デジタルデバインド講習会は申込受付開始後1時間弱で定員に達するなど、市民の大きな期待が感じられたため、今後も継続していく必要があります。
今後の取組の方向性	・特集展示について、終了後でも特集資料を知ることができるようにします。 ・デジタルデバインド講習会について、中央図書館での継続実施に加え、他の地域での展開や参加人数の拡大などを検討します。

■取組2-8 障がい者サービスの充実	図書館
--------------------	-----

事業概要	通常の活字による読書が困難な人の学びのきっかけとなるよう、マルチメディアDAISY（デイジー）*の貸出を拡充するなど、より対象者を広げた障がい者サービスを行います。				
これまでの取組	視覚障がいなどで活字を読むことが困難な人、寝たきりなどで図書館への来館が困難な人へのサービスを行っています。さらに、視野狭窄などにより読書が困難な人を対象に、リーディングトラッカー（読書補助具）の貸出を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	通常の活字による読書が困難な人を対象とした事業数		1事業	3事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	事業の実施・検討	2事業実施		3事業実施	
			事業内容の検証		事業内容の検証
年度目標	1事業	2事業	2事業	3事業	3事業

*マルチメディアDAISY（デイジー）：音声と一緒に、文字や絵、写真などを見ることができるパソコンで読む本のこと。

<2021年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	・マルチメディアDAISYについて、上映会を開催し、会場でのミニ展示と共にPRを行ったり、若手教員育成研修で資料の紹介と、学校図書館支援貸出でも利用できるように案内しました。 ・2022年3月にボランティア養成講座「テキストDAISY*実習講座」を開催し、テキストDAISY製作を学ぶ機会を設けました。 ・リーディングトラッカーの貸出を含め、実施した事業の合計は3事業となりました。 ・中央図書館特集コーナーで、点字絵本やLLブック、マルチメディアDAISYなど、通常の読書が困難な人も利用できる資料の展示やサービスのPRを行いました。 ・新型コロナウイルス対策として、日程や場所の調整を行いながら対面朗読を実施しました。また、宅配サービス、音訳・点訳サービスも、ボランティアの協力のもと実施しました。
課題	・マルチメディアDAISYをはじめ、障がい者サービスの利用促進に向けて、更なる取り組みを進める必要があります。 ・サービスの大きな部分を担うボランティアの高齢化・減少に対応する必要があります。
今後の取組の方向性	・展示等を通じて障がい者サービスをPRし、新規利用を促進します。 ・関連団体等とも協力して、ボランティア養成を進めます。

*テキストDAISY：音声データの入っていないパソコンで読む本のこと。再生機等の音声合成機能でテキストを読み上げさせて聞くことができる。

■取組2-9 図書館資料による情報提供機会の充実	図書館
--------------------------	-----

事業概要	町田市の施策や町田市の魅力をより多くの市民にPRするために、図書資料の展示方法やPRを改善しながら、「本の特集コーナー」による情報提供機会の充実を図ります。				
これまでの取組	2015年度から町田市の施策をPRするための「本の特集コーナー」を市の各部署と連携して行っています。市の施策を市民に役立ててもらうとともに、図書館利用者を増やす取り組みのひとつとなっています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	他部署や他機関と連携した「本の特集コーナー」の実施数		19回	33回	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	改善点の洗い出し	改善案の実施	改善点の洗い出し	改善案の実施	改善点の洗い出し
年度目標	19回	26回	26回	33回	33回

<2021年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	- 他部署や他機関と連携した「本の特集コーナー」を50回実施しました（中央図書館21回、さるびあ図書館2回、金森図書館3回、木曽山崎図書館1回、堺図書館1回、忠生図書館3回、鶴川駅前図書館19回）。 - オリンピックの開催に伴い、全館共通テーマで連動した特集コーナーなどの実施を行いました。 「本の特集コーナー」で紹介した図書をリスト化しホームページで公開しました。 「本の特集コーナー」に関連するCDを設置するなど、新しい取り組みを行いました。
課題	- 他部署と連携したイベントの開催など、更なる相乗効果を生み出すような連携を模索する必要があります。 - 他部署のSNSによる特集コーナーの周知など、より多くの方に特集コーナーを知ってもらう方法を考える必要があります。
今後の取組の方向性	- 他部署と連携したイベントの開催など更なる相乗効果を生み出すような連携を引き続き検討します。 - 他部署のSNSによる特集コーナーの周知など、より多くの方に特集コーナーを知ってもらう方法について検討します。

■取組2-10 「町田ゆかりの作家」紹介事業の充実	文学館
---------------------------	-----

事業概要	中学生を対象に町田ゆかりの作家*を紹介し、町田市への愛着をさらに持ってもらうきっかけとなるよう、パンフレット「町田の文学ガイド」を作成します。				
これまでの取組	大人向けの資料として、展覧会で紹介した町田ゆかりの作家を図録にまとめています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	「町田の文学ガイド」作成		未実施	作成・配布	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	他市事例等の調査	ゆかり作家情報の整理・調査	企画立案・編集方針の決定	原稿作成 校正作業	印刷・完成 配布
年度目標	調査完了	調査完了	編集方針の決定	原稿完成	完成・配布

*町田ゆかりの作家：遠藤周作や森村誠一など、その生涯や作品が町田市と深く関わり、文学の分野で一定の社会的評価を受けている小説家、歌人、俳人、詩人、絵本作家、漫画家等。

<2021年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	・大学生との協働による事業実施を模索し、2022年度から玉川大学と協定を結び事業に取り組むことが決定しました。
課題	・大学のカリキュラムに合わせて事業を進める必要があります。 ・大学生に町田ゆかり作家やその作品について学んでもらう必要があります。 ・中学生に興味をもってもらえるものを作るために内容や表現方法を検討する必要があります。
今後の取組の方向性	・限られた時間のなかで効率的に事業を進められるよう計画をたてて原稿作成に取り組めます。

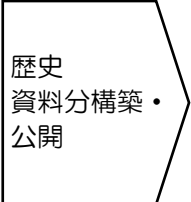
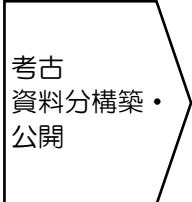
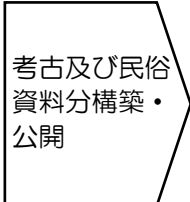
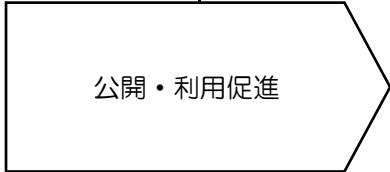
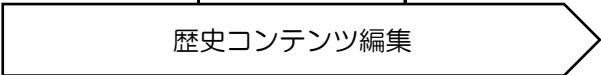
■取組3-1 地域の課題解決に向けた学習支援【◇】	生涯学習センター
---------------------------	----------

事業概要	地区協議会をはじめとした地域団体や関係機関と連携・協働しながら、住民自らが課題を見つけ出し、解決に向けて行動できるよう学習支援を進めていきます。				
これまでの取組	鶴川地区の交流促進や様々な困りごとの相談の場となっている鶴川地区協議会主催「3水スマイルラウンジ」にて「学びのひろば」を共催し、地域の歴史や文化を理解する講座などを実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	連携事業を実施した地区協議会の数（累計）		1地区	5地区	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	各地区協議会への働きかけ				
	地区協議会との連携事業の実施（1地区）	検証	地区協議会との連携事業の実施（1地区）	検証	地区協議会との連携事業の実施（2地区）
	2地区	検証	3地区	検証	5地区

<2021年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	・鶴川地区協議会と共催し、和光大学鶴川ポプリホールを会場に開催している「3水スマイルラウンジ」の一企画として、地域の自然、歴史、文化をテーマにした『まなびのひろば』を実施しました。 ・玉川学園南大谷地区協議会と共催し、玉川学園さくらんぼホールと南大谷さくら会館で、平和祈念事業「夏の平和イベント」として、広島平和記念公園の被爆アオギリを題材にしたうたと語り「アオギリのねがい」を実施しました。 ・木曽地区協議会と協力し、さかいがわ会館で、「出張！なんでもスマホ相談室」を実施しました。
課題	・鶴川地区での取組は8年目となり、地域にも定着してきましたが、このまま継続していくか、新たな展開を図るか、地区協議会との協議を進める必要があります。 ・玉川学園南大谷地区は地域のNPO団体の協力を得て、木曽地区は市民協働推進課からの情報提供をもとに実施に至りました。庁内や地域団体からの情報を得られるよう、工夫する必要があります。
今後の取組の方向性	・2022年2月に策定した「町田市生涯学習センターのあり方見直し方針」に基づき、事業の見直しを行います。 ・鶴川地区協議会との連携、協働を継続し、地域のニーズに合った学習機会を提供します。 ・これまで連携事業を実施していない地区協議会に働きかけ、連携・協働のもと事業の実施に向けて調整を進めます。

■取組3-2 町田の歴史情報の提供【◇】	文化財係・自由民権資料館
----------------------	--------------

事業概要	市民の郷土への理解や愛着がさらに深まるよう、町田の歴史をわかりやすく伝える「町田デジタルミュージアム*」を構築し、公開します。				
これまでの取組	新規事業				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	町田デジタルミュージアム構築の進捗		未実施	システム構築完了、公開（2022年度）	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	 歴史資料分構築・公開	 考古資料分構築・公開	 考古及び民俗資料分構築・公開	 公開・利用促進	
	 歴史コンテンツ編集				
年度目標	歴史資料分公開	考古資料分公開	考古及び民俗資料分公開	公開	公開・検証

*町田デジタルミュージアム：町田市が所蔵する考古、歴史、民俗資料をデジタル化し、インターネット上で閲覧できるようにする仕組みのこと。

<2021年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	・町田デジタルミュージアムの構築が計画通り完了しました。 ・民俗資料の撮影と「町田市立博物館所蔵民俗資料目録」のデジタル化を行いました。 ・年表及び考古資料に関する遺跡地図作成しました。 ・撮影した資料のレイアウト作成やトップページデザインの構築を行いました。 ・構築作業を全て終了し2000点以上の考古・歴史・民俗資料に関する画像の掲載（考古資料 約400点、歴史資料 約170点、民俗資料 約1600点）が完了しました。
課題	公開した町田デジタルミュージアムを多くの方に見ていただくためのPRが必要です。
今後の取組の方向性	PR用のポスター・チラシやホームページ・SNS・動画配信などを通じて、利用の促進を図ります。

■取組3-3 「文学の扉」事業の推進【◇】	文学館
-----------------------	-----

事業概要	より多くの市民に文学やことばに親しんでもらえるよう、町田ゆかりの作家の紹介や文字・ことばの魅力を伝える展覧会を、ことばに関連する他ジャンルを幅広く取り込みながら、より柔軟で多様な内容により実施します。また、若年層を対象とした創作活動などの学習事業を充実します。				
これまでの取組	町田ゆかりの作家を紹介する展覧会を中心に年4回の企画展を実施しています。また、0歳児・1歳児対象のおはなし会「ちちんぷいぷい」や小学生対象の俳句実作講座「子ども俳句教室」、一般対象の文学やことばに関する講演会など、ライフステージに合わせた学習事業を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①展覧会を通じ、新たな興味や学習意欲につながった人の割合（観覧者アンケート）		84%	90%	
	②中高生から20歳代を対象とした事業数		1事業	3事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	展覧会の実施、内容の検証・改善				
	若年層対象事業の実施・検討	若年層対象事業（2事業）実施		若年層対象事業（3事業）実施	
年度目標（指標①）	86%	87%	88%	89%	90%
年度目標（指標②）	事業の検討	2事業	2事業	3事業	3事業

<2021年度の事業実績>

達成状況（指標①）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標①）	・展覧会では、従来の文学の概念にとらわれない内容や、SNSを活用した展示手法に試みたことで、新たな興味関心を得た人の割合が平均値で92.2%となり目標値を上回りました ・広く言葉の魅力を伝えることを目的に、春季展「ZARD/坂井泉水 心に響くことば展」や冬季展「57577展一訪れてくれたあなたの足跡と共に続いてゆく物語」など、従来の文学の概念にとらわれない展覧会を実施しました。 ・冬季展では、SNSを活用したインタラクティブ（双方向）な展示手法を試みました。
達成状況（指標②）	A 計画以上に目標を達成した
取組状況（指標②）	・市内在住・在学の小中高生を対象とした「ことばらんどショートショートコンクール」及びコンクールと連動した事業として小中学校への出張授業を行いました。 ・20代に人気の作家で町田にゆかりのあるカツセマサヒコ氏を講師とした講演会や若年層を対象とした企画展として秋季展「浅生ハルミン ブック・パラダイス展」を実施しました。
課題	展覧会の観覧者数は新型コロナウイルス感染拡大前の約7割に留まっています。文学館への集客だけでなく、ウィズコロナ時代にあった手法で事業を行う必要があります。
今後の取組の方向性	・デジタル化に対応した事業を検討し実施します。 ・「ことばらんどショートショートコンクール」への応募意欲を喚起するため動画を作成し公開します。

■取組3-4 文化財の維持・保護・復旧の推進	文化財係
------------------------	------

事業概要	文化財を維持・保護し、下三輪玉田谷戸横穴墓群*、細野喜代四郎書斎*など、未整備、未公開の文化財の復旧・修復を推進します。				
これまでの取組	横穴墓、古民家など市内の指定文化財を復旧し、整備を進めています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	下三輪玉田谷戸横穴墓群復旧整備		現況測量完了	整備完了・公開	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	整備 事前準備	保存管理計画策定 遺構再確認 調査、保存 処理調査	実施設計	整備工事	公開
年度目標	史跡整備事前準備完了	保存管理計画策定開始 遺構再確認調査 保存処理調査	保存管理計画策定完了 実施設計	整備工事	整備完了・公開

* 下三輪玉田谷戸横穴墓群：古墳時代後期（7世紀ごろ）の地域の有力者の墓。崖面に横穴を掘り遺体を安置した。都内で唯一、墓の内部に家形の彫刻が施されている。

* 細野喜代四郎書斎：町田を代表する自由民権運動家・細野喜代四郎が書斎として愛用した土蔵。解体され、現在部材の状態で保管されている。

<2021年度の事業実績>

達成状況	E 目標を大きく下回った、実施できなかった
取組状況	- 定期的な点検、清掃を行いました。 - 下三輪玉田谷戸横穴墓群については、町田デジタルミュージアムで内部も3Dパノラマビュー画像で公開しています。
課題	横穴墓内の天井や壁の崩落は進行しており、状況観察を継続的に行う必要があります。
今後の取組の方向性	保存管理計画策定に向けて劣化を最小限に抑えるため、必要に応じて応急的な保存措置を講じます。

■取組3-5 文化財の公開・活用の充実	文化財係
---------------------	------

事業概要	文化財を積極的に公開・活用し、市民が文化財に触れ合える機会をより多く提供します。				
これまでの取組	市内の指定文化財の公開・活用イベントを実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	文化財の公開・活用イベント件数		4件	6件	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	イベント4件実施			イベント5件実施	イベント6件実施
	イベント内容検証		イベント内容検証・新規イベント検討	イベント内容検証・新規イベント検討	イベント内容検証・新規イベント検討
	4件	4件	4件	5件	6件

<2021年度の事業実績>

達成状況	D 目標に達しなかった
取組状況	・まちだ〇ごと大作戦「縄文フェスティバル」と連携し、八幡平遺跡のガイドツアー1件を実施しました。 ・新型コロナウイルスの影響で、予定していた文化財の公開・活用イベント（多摩郷土史フェア、文化財防火デーなど）は中止となりました。
課題	・文化財を公開・活用するには、破損が生じないよう対策が必要です。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の方策をとりながら事業を行う必要があります。
今後の取組の方向性	2022年4月から全面公開を開始した町田デジタルミュージアムと連携し、効果的な公開・活用のあり方を検討、実施していきます。

■取組3-6 展示事業の充実	自由民権資料館
----------------	---------

事業概要	自由民権運動と町田の歴史情報をさらに発信できるよう、これまで収集・整理した市域の歴史資料を基にした企画展や、収蔵資料に加え関連資料を市内外の施設や個人から借用し展示する特別展を実施します。			
これまでの取組	企画展・特別展を年3回実施しています。 また、来館者アンケートにより展示等、資料館の満足度について調査を実施しています。			
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	資料館への満足度 （来館者アンケート）		77%	85%
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	企画展・特別展 2回実施	企画展・特別展 3回実施	企画展・特別展 3回実施	企画展・特別展 3回実施
	展示・展覧会の内容の検証・改善			
	来館者アンケートによる調査・検証・改善			
年度目標	80%	82%	83%	84%
				85%

<2021年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	・特別展「町田と江戸―ヒトとモノの交流史―」、「石坂昌孝―豪放磊落な民権家の生涯―」と企画展「第3回市民協働展」の計3回を実施しました。その他に三輪の森ビジターセンターにおいて「むかしの暮らしと運ぶ道具」の展示を実施しました。 ・特別展、企画展に対する来館者アンケートでは、「興味深かった」または「興味を持てた」と回答した方の割合は平均85%でした。
課題	・2021年度に策定した「町田市自由民権資料館のあり方見直し方針」に基づき、町田市域の歴史をより広く市民に伝えるための展示内容を検討する必要があります。
今後の取組の方向性	常設展・企画展・特別展の展示構成や内容の見直しを行い、町田デジタルミュージアムと連動した展示にリニューアルします。

■取組3-7 講座・講演会事業の充実	自由民権資料館
--------------------	---------

事業概要	より深く歴史について学びたいという市民のニーズに応えられるよう、古文書講座や町田自由民権カレッジを実施するほか、特別展・企画展に関連した講演会や講師を招いた講座・講演会等を実施します。				
これまでの取組	古文書講座、町田自由民権カレッジのほか特別講座や、特別展に関連した講演会を実施しています。				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	講座・講演会等の実施回数			60回	70回
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	講座・講演会 40回実施	講座・講演会60回実施		講座・講演会70回実施	
	講座・講演会の内容の検証・改善				
	40回 ※改修工事の為	60回	60回	70回	70回

<2021年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	新型コロナウイルスの影響により、古文書講座を中止しましたが、町田自由民権カレッジ、特別展関連事業「記念講演会」、地域の史跡などを歩いてめぐる「町田の歴史を歩く2022」などを開催したほか、小中学校への出張授業、市民大学等への出張講師など計63回の講座・講演会を実施しました。
課題	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講座・講演会の内容や開催方法の見直しを検討する必要があります。
今後の取組の方向性	新型コロナウイルス感染防止対策が必要な中でも、より効果的に市民が歴史を学ぶことができるように、講座・講演会を実施します。

■取組3-8 レファレンスサービスの充実	図書館
----------------------	-----

事業概要	市民の調査・研究を援助するレファレンスは、市民一人一人の学びを深めることができる重要なサービスです。求める資料を見つけることができるように、レファレンスサービスの充実に向けて技術の向上を図ります。さらに、レファレンス事例の公開や、インターネット情報にアクセスできる環境を整備します。				
これまでの取組	レファレンス事例をデータ化し、インターネットで公開しました。基本的な資料を案内する「パスファインダー」を作成しました。調べ物に役立つ情報をまとめた「レファレンス通信」を発行しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	レファレンス事例の公開件数		162件	250件	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	レファレンス事例の公開				
	レファレンス事例の点検と今後の改善方法の検討		レファレンス技術の向上のための改善プラン実施		事例の公開の振り返り
年度目標	190件	205件	220件	235件	250件

<2021年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	- レファレンス事例をインターネットで24件公開し、公開件数は延べ258件になりました。 - 国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している「レファレンス協同データベース」にレファレンス事例を23件公開しました。 - レファレンス事例や資料を紹介する「レファレンス通信」を2回発行しました。 - 職員の技術力向上のため、レファレンスカウンターに入る職員についての研修内容について見直しました。
課題	- レファレンス事例については、利用者の調べ物に役立つよう、引き続き幅広い分野について公開していく必要があります。特に町田の地域資料に関する事例の充実が必要です。 - レファレンスサービスを気軽に利用してもらえるような工夫が必要です。 「パスファインダー」については、最新の情報を提供するため定期的に改訂する必要があります。 - レファレンスサービスの充実には、職員の技術力向上が欠かせず、人材育成が必要です。
今後の取組の方向性	- 引き続き、町田の地域資料を中心とした幅広い分野について、レファレンス事例を公開していきます。 「レファレンス通信」やイベント等を通じて、利用者に気軽に利用してもらえるような工夫を行います。 「パスファインダー」の改訂を行います。 - レファレンス技術向上のため、都立図書館等の研修に積極的に参加します。

■取組4-1 市民提案型事業の推進【◇】	生涯学習センター
-----------------------------	----------

事業概要	学習ニーズをより反映させた内容となるよう、市民団体の提案を基に地域課題の解決につながる学習講座を提案者とともに作り上げていく市民提案型事業「まちチャレ*」を拡充します。				
これまでの取組	地域で活動する学生団体が企画・運営する学生活動報告会*を開催するとともに、市民提案型事業「まちチャレ」を開始しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	市民提案型事業「まちチャレ」で実施する講座数		5講座	8講座	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	5講座実施	6講座実施		7講座実施	8講座実施
	事業実施体制の整備				
年度目標	5講座	6講座	6講座	7講座	8講座

*まちチャレ：市民が日常生活の中の課題等を基に企画提案したものを、生涯学習センターとともに実施する学習講座。

*学生活動報告会：町田市や相模原市で活躍する学生団体が、ポスターブース等で活動内容を紹介するイベント。

<2021年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	・「町田の詩人、心の詩人八木重吉をもっと知ろう」「ちがいをもっと知りたいな、多文化共生ってなあに？」「どうして生きづらいの？」「ロコモ予防体操」など、様々な分野の6講座を実施しました。 ・2講座は堺市民センター、木曽山崎コミュニティセンターで開催したことで、地域の課題解決につなげることができました。 ・2022年度の説明会に合わせて、2021年度講座実施団体の報告会を行い、団体同士が相互に交流する機会を設けました。
課題	・2022年度は7講座に増えるため、多くの方が受講できるよう、開催時期を調整する必要があります。 ・生涯学習センター以外の会場で実施し、地域で学ぶ場を増やしていく必要があります。
今後の取組の方向性	・2022年2月に策定した「町田市生涯学習センターのあり方見直し方針」に基づき、事業の見直しを行います。 ・企画募集の段階で、地域実施にむけて応募予定団体へ働きかけていきます。

■取組4-2 協働による研究・発表の推進【◇】

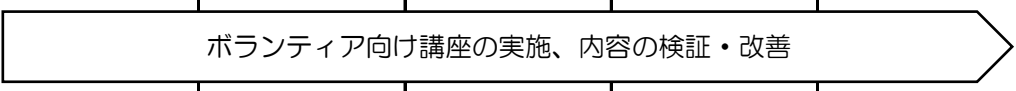
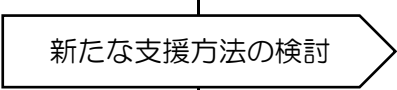
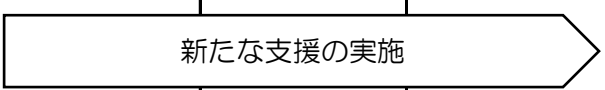
自由民権資料館・
文学館

事業概要	市民の学習・研究意欲が高まり、学んだ成果を地域に還元してもらうことができるよう、市民の学習・研究活動の支援を行うとともに、協働して研究成果物の刊行や企画展・イベント等を実施します。				
これまでの取組	- 自由民権資料館では、古文書講座や自由民権カレッジなどの修了生が組織する歴史研究グループの研究活動を支援しています。また、資料館の収蔵する史料の整理の一部を学生ボランティアの協力により行っています。 - 文学館では、2年を任期として市民がテーマを設定して研究を進める「市民研究員制度」を実施しています。また、市民研究員との協働により定期的に研究成果物を刊行し、研究発表の支援を行っています。				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	①研究成果物の刊行に向けた事業数			6事業	8事業
	②研究発表会等の実施回数			未実施	毎年度実施
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	研究支援及び成果物の刊行				
	企画展・研究発表会検討		企画展・研究発表会実施		
年度目標 （指標①）	6事業	7事業	7事業	8事業	8事業
年度目標 （指標②）	検討	実施	実施	実施	実施

<2021年度の事業実績>

達成状況 (指標①)	B 目標を達成した
取組状況 (指標①)	- 史料集や目録の作成に向けての解読作業5事業、史料整理3事業について、関係団体が定期的に研究会を開催し活動できるように支援しました。解読作業の1件については、「晴雨日記1」を刊行することができました。 - 大学生と連携して事業を行う仕組みを検討し、2022年度から玉川大学の学生と中学生向けの「町田文学ガイド（仮）」の作成事業に取り組むことが決定しました。
達成状況 (指標②)	B 目標を達成した
取組状況 (指標②)	「鶴川青年団文書」および、「天野政立文書」解読作業について、市民協働企画展を開催し、発表を行いました。
課題	- 関係団体の活動を支援するとともに、より多くの学習機会提供のため、史料整理を進める必要があります。 - 玉川大学の授業の一環として位置付けられているため、活動時間や内容を大学のカリキュラムに合せて設定する必要があります。
今後の取組の 方向性	- 関係団体の活動支援を継続しながら解読作業を継続するとともに、優先的に整理すべき重要資料群を選定し、整理を進めます。 - 文学館がこれまでに蓄積してきた知識や資料を活用して、大学生とともに「町田文学ガイド（仮）」を作成します。

■取組4-3 地域で活動するボランティアの養成・支援【◇】	図書館
-------------------------------	-----

事業概要	おはなし会などの本にかかわる活動がより活発に行われるよう、地域や学校で活動するボランティアを養成するとともに、ボランティアが行うおはなし会の開催を支援します。				
これまでの取組	各図書館でのおはなし会については、ボランティア入門講座を行っておはなし会の担い手を育成し、職員とボランティアが協力して、おはなし会を実施しています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①地域で活動するボランティア向け講座の開催回数	1回	3回		
	②地域で活動するボランティア向け講座への参加者数	26人	90人		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					
					
	年度目標 (指標①)	1回	1回	2回	2回
年度目標 (指標②)	30人	30人	60人	60人	90人

<2021年度の事業実績>

達成状況 (指標①)	B 目標を達成した
取組状況 (指標①)	・地域で活動するボランティア向けの講座を12回開催しました。また、ボランティアの活動の継続に必要なモチベーションや技術の向上を支援することができました。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、おはなし会については感染症対策をしつつ、回数を減らして開催しました。 ・十分に活動できなかったボランティアのフォローを目的に、特に活動歴の浅いボランティアを対象としたスキルアップ研修等を開催しました。 ・読み聞かせに関わる活動をしている保護者やボランティアの技術や意欲の向上のために、感染症対策を講じた上で読み聞かせ講座等を開催しました。
達成状況 (指標②)	B 目標を達成した
取組状況 (指標②)	・地域で活動するボランティア向けの講座の参加者数は94人でした。
課題	・新型コロナウイルスの影響もあり、各図書館ごとに単独で講座を行う形になりました。町田市の図書館として、年間を通じてどこの館で、どのような内容で講座等を行うのかを設定することが必要と考えます。
今後の取組の方向性	・各図書館の担当者と打合せを行い、図書館として全館でどのように実施するのが有効か検討します。 ・実践編を行うことができる図書館を増やすことを検討します。 ・ボランティアの新たな活躍の場について、要望に応じた支援ができるよう、事業の具体化に向けて検討を進めます。

■取組4-4 学習成果の発表機会の支援	生涯学習センター
---------------------	----------

事業概要	生涯学習センターを拠点として活動している市民団体や、町田市及び近隣地域で活動する学生団体が、より多くの人に日頃の活動の成果を発表できる機会を提供します。				
これまでの取組	日頃の活動の成果を発表する「生涯学習センターまつり」、「学生活動報告会」を開催しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①生涯学習センターまつりへの参加団体数（来館者数）		53団体（2,167人）	58団体（2,500人）	
	②学生活動報告会への参加団体数		9団体	11団体	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	生涯学習センターまつりの実施（運営委員会による内容検討）				
	学生活動報告会の実施（参加学生団体への支援・内容検討）				
	新たな支援内容の検討	新たな支援に向けた調整	新たな支援の実施		検証
年度目標（指標①）	54団体（2,230人）	55団体（2,300人）	56団体（2,370人）	57団体（2,430人）	58団体（2,500人）
年度目標（指標②）	10団体	10団体	10団体	11団体	11団体

<2021年度の事業実績>

達成状況（指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標①）	- 新型コロナウイルスの影響により、来場型ではなく、生涯学習センターまつりの趣旨である「全ての利用団体でつくり上げるみんなのまつり」と「生涯学習センターでのサークル活動を多くの方々に知っていただく発表の場」を継続していくことを念頭に、オンライン形式で実施しました。 - 参加団体数は14団体、アクセス数は5,148回でした。
達成状況（指標②）	B 目標を達成した
取組状況（指標②）	2022年3月にオンライン配信形式で学生活動報告会を開催し、新規団体2団体を含む11団体が参加しました。
課題	- 生涯学習センターまつりは、来場型も併用した開催を望む声があることから、実施方法を検討する必要があります。 - 学生活動報告会は、学年の切り替わりとともに、代表者やメンバーが交代する学生団体が多いため、各団体との切れ目のない繋がりづくりや支援を行っていく必要があります。また、現役の大学生だけでなく高校生や卒業生との交流や市の事業や地域団体との連携を望む声があり、事業内容の検討が必要です。
今後の取組の方向性	- 生涯学習センターまつりは、オンライン形式を継続するとともに、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を行ったうえで、来場型でも開催できるような工夫を行います。 - 引き続き、学生活動報告会の開催に向けて参加団体数を維持する取組を進めるとともに、さがまちコンソーシアムや町田市地域活動サポートオフィス、庁内他部署と連携し学生や市民団体のニーズに沿った支援を行います。

■取組4-5 生涯学習ボランティアバンク事業の推進	生涯学習センター
---------------------------	----------

事業概要	生涯学習ボランティアの知識や技能を広く市民の学習活動に活かすことができるよう、生涯学習ボランティアバンク事業の更なる周知に努め、利用件数の向上を図ります。			
これまでの取組	小学校PTA連絡協議会において、保護者向けに事業の周知を図りました。 また、事業の周知のため、生涯学習センターまつりにおいて一日体験講座を実施しました。			
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	生涯学習ボランティアバンクの利用件数	16件	30件	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	新たなPR 方法の検討	新たなPR 方法の実施	検証	検証結果に基づくPR方法の 見直しと実施
	生涯学習ボランティアバンクー一日体験講座の実施			
年度目標	18件	22件	25件	28件
				30件

<2021年度の事業実績>

達成状況	D 目標に達しなかった
取組状況	・「町内会・自治会活動のハンドブック」への紹介記事掲載、市ホームページやTwitterによる情報発信、中学校のボランティアコーディネーター会議や生涯学習連絡会「お悩み解決LABO」での事業紹介などのPRを行ったことにより、17件の申込があったものの、新型コロナウイルスの影響でイベントが中止となり、実際に実施できたのは8件に留まりました。 ・2020年度の3件に比べ、5件増加しましたが、新型コロナウイルスの流行以降、利用、登録ともに大幅に低下し、新型コロナウイルス流行前の水準に戻っていません。
課題	・元来、主として市民団体の利用を想定した事業ですが、近年、利用者の属性が市民サークル・団体から行政組織や施設、NPO等の法人に移行しています。利用対象者の拡大など、運用ルールを見直す必要があります。 ・町田市の全小中学校のコミュニティスクール化に伴い、学校と地域の学習指導者をつなぐ仕組み作りが求められています。
今後の取組の方向性	・新型コロナウイルスの影響により利用の促進が難しい状況ですが、引き続き制度の周知に努めるとともに、比較的利用頻度が高い子ども施設や高齢者施設等の利用ルールを整理し、市民の学習成果還元のための確保を図っていきます。

■取組4-6 障がい者の学習成果を発表する場の充実	生涯学習センター
---------------------------	----------

事業概要	障がいのある人が、社会で生活しながら学び続けられるように、視覚や聴覚などの障がいに応じた学習要求の調査、研究を行い、学習プログラムを開発します。その上で、発表の場を設けることで障がい者の生涯学習を推進します。				
これまでの取組	主に知的障がいのある人を対象とした障がい者青年学級において、学級ごとに学習成果の発表の場を設けるなど、生涯学習の推進に取り組んでいます。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	障がいに応じた学習成果の発表の場		未実施	実施（2021年度）	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	調査・研究	学習プログラムの開発	事業の実施・検証	事業の実施・検証	事業の実施・検証
年度目標	調査・研究	学習プログラムの開発	実施・検証	実施・検証	実施・検証

<2021年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	- 障がいのある人のための学習講座【聴覚障がい編】として全6回コースの講座「『きこえない』とともに暮らす」を実施しました。 - 受講者同士の交流を中心にした講座としたことで、修了団体が誕生しました。 - 障がいのある人のための学習講座は2021年度から2023年度までの3年間継続実施するため、1講座ごとの周知に留めず3年間を通した周知をするホームページを作成しました。
課題	- 障がいのある人の参加が参加者の3割に留まっており、対象とする障がいを持った方向けに配慮したPR方法の工夫が必要です。 - 障がいを持った方が講座を受講できるよう、手話通訳などの情報提供手段が必要です。
今後の取組の方向性	- 主催事業以外でも障がいのある人の学習成果を発表する場が充実するよう団体支援を行っていきます。 - 地域とのつながりをつくり、深めていくため、町田市社会福祉協議会、町田市聴覚障害者協会、町田市福祉身体障害者協会、FC町田ゼルビア、その協賛企業の株式会社TERADAとの協力、連携を図ります。

■取組4-7 図書館運営の地域協働化の促進	図書館
-----------------------	-----

事業概要	市民の学習を支える図書館活動を市民参画・協働でこれまで以上に進めることができるよう、図書館で活躍するボランティアの活動分野を拡げていきます。				
これまでの取組	児童サービスの「おはなし会ボランティア」、障がい者サービスの「宅配ボランティア」・「音訳ボランティア」・「点訳ボランティア」・「対面朗読ボランティア」で市民ボランティアが活動しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	ボランティア活動分野の拡大		5分野	7分野	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	5分野	6分野	6分野	7分野	7分野
	拡大に向けた検討				
年度目標	5分野	6分野	6分野	7分野	7分野

<2021年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	- 以下の6分野でボランティアの活動がありました。 ①「おはなし会ボランティア」 小学生・幼児向け：51回、乳幼児向け：31回開催 ②「宅配ボランティア」宅配件数：396件 ③「音訳ボランティア」音訳資料製作タイトル数：58点 ④「点訳ボランティア」点訳資料製作タイトル数：14点 ⑤「対面朗読ボランティア」対面朗読件数：212件 ⑥「イベントボランティア」：1回開催 - MSP(町田創造プロジェクト)や図書館実習生からボランティアの活動分野についてヒアリングを行いました。 - おはなし会や障がい者向けサービス以外の分野でボランティア活動を支援している図書館について研究を行いました。 8月に中央図書館で子ども向けイベント「絵本づくりワークショップ」を行い、イベント当日のボランティアとしてMSP(町田創造プロジェクト)から2人が参加し、子どもたちが絵本作成するときのフォローを行っていただきました。
課題	- ボランティアが気軽に自分の個性を生かした内容で参加出来る環境や研修等について検討します。 - 図書館側が役務の分担を期待するようなボランティアだけではなく、イベントの企画など市民が主体的に参画できるようなボランティアを検討する必要があります。
今後の取組の方向性	- ボランティア活動への準備を行ったうえで、イベント補助やイベント企画・運営等の図書館を盛り上げるといった新しい活動分野を開拓します。 - イベントの企画など市民が主体的に参画できるようなボランティアについて検討します。

■取組4-8 市民の文学活動への支援	文学館
--------------------	-----

事業概要	多くの市民が文学の楽しみを知り、市民同士の交流が広がるよう、市民の活動の自発性を尊重しながら、その学習成果や文学的知識、技能、表現力などを還元できる機会をつくります。				
これまでの取組	読み語り実行委員会との朗読会、紙芝居サークルとの紙芝居上演会、幼児向けおはなし会などを協働で実施しています。				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	支援団体数			5団体	7団体
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	市民団体への支援				
	事業内容の検証		検証を踏まえた新たな事業の実施		
年度目標	6団体	6団体	6団体	7団体	7団体

<2021年度の事業実績>

達成状況	D 目標に達しなかった
取組状況	- 新型コロナウイルスの感染防止対策をとりながら、「紙芝居・大人の時間」、「3・4歳児あつまれ！」を実施しました。 - 参加者に高齢者が多い「時代小説読み語り」は、検討の上、実施を取りやめました。
課題	コロナ禍において、小さなサークルでの市民活動は復活してきましたが、これまで文学館が支援の対象としてきた大規模事業を実施するサークルは活動を自粛しています。新たな支援のあり方を検討する必要があります。
今後の取組の方向性	支援の対象を広げ、市内で学ぶ学生への支援の仕組みを検討します。

■取組5-1 支援が必要な人への学習機会の提供【◇】	生涯学習センター
----------------------------	----------

事業概要	外国人居住者、障がい者、ひきこもり当事者など文字の読み書きや基礎学力の学び直しを求める人の学習機会を保障するため、学習に関するニーズ調査を行い関係機関と連携して学習機会を提供します。				
これまでの取組	障がい者を対象とした「障がい者青年学級」、ひきこもり当事者を対象とした居場所事業などを実施しています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①多文化共生*に関する学習事業数	1事業	3事業		
	②社会的困難を抱えた人への学習事業数	3事業	5事業		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	各種学習事業の実施 関係機関への働きかけ				
	参加者アンケート等によるニーズ調査・ 事業内容への反映			市民意識 調査での ニーズ 把握	新たな 事業の 実施
年度目標 (指標①)	1事業	2事業	2事業	3事業	3事業
年度目標 (指標②)	3事業	4事業	4事業	5事業	5事業

*多文化共生：国籍や民族などが異なる人々が、文化的な違いを認め合い、対等な関係を築きながら、ともに生きていくこと。

<2021年度の事業実績>

達成状況 (指標①)	B 目標を達成した
取組状況 (指標①)	多文化共生に関する学習事業数は2事業実施しました。まちチャレ「ちがいをもっと知りたいな、多文化共生ってなあに？」では、外国や日本文化の紹介などを通してお互いの違いを理解し、共に生きるためのヒントを学ぶ場となりました。国際交流センターとの共催講演会「外国の音楽とお話と」では、外国のダンスと楽器の演奏を通して、異文化理解を深めることができました。
達成状況 (指標②)	B 目標を達成した
取組状況 (指標②)	社会的困難を抱えた人への学習事業数は4事業実施しました。障がい者青年学級とまなびテラスを実施しました。まちチャレ「どうして生きづらいの？」では、当事者、支援者双方の立場の人が参加することで社会的困難に対する理解を深めることができました。障がいのある人のための学習講座「きこえない」とともに暮らしでは、聴覚障がいについて理解を深めることができました。
課題	まちチャレでは、テーマを指定して募集するなど、多文化共生や社会的困難に関する学習講座で市民ニーズをより反映させた内容とする必要があります。
今後の取組の 方向性	2022年2月に策定した「町田市生涯学習センターのあり方見直し方針」に基づき、事業の見直しを行います。 - 多文化共生に関する事業は、様々な視点から意識の啓発を図るよう、工夫します。 - 障がい者の多様な学習活動を総合的に支援するため、関係機関と調整を行います。 - 誰もが平等に学べる環境をつくるため、障がい者に限らず学びに支援が必要な方向けの学習支援を継続して実施していきます。

■取組5-2 本と出会う場所の創出【◇】	図書館
----------------------	-----

事業概要	町田市には大学図書館や地域文庫、まちライブラリー*など本に触れることができる施設が各地域にあります。これらの施設と図書館が連携して読書活動を推進する取組を進めるとともに、これらの施設の情報を集約した読書マップを作成します。				
これまでの取組	市民が利用可能な大学図書館やおはなし会を実施している団体の情報を収集し、図書館ホームページに掲載しています。				
活動指標	指標	現状値（2017年度）	目標値（2023年度）		
	①読書活動推進にかかる連携施設数	20か所	25か所		
	②読書マップの作成	未実施	作成・公開（2020年度）		
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	図書の貸出・閲覧やおはなし会がある市民利用施設との連携推進				
	本に触れることができる施設の把握	マップの作成・公開		マップの更新	
年度目標（指標①）	21か所	22か所	23か所	24か所	25か所
年度目標（指標②）	施設の把握	作成・公開	検証	更新	検証

*まちライブラリー：47ページのコラム「まちライブラリーとは？」を参照。

<2021年度の事業実績>

達成状況（指標①）	B 目標を達成した
取組状況（指標①）	- 新たに開設した本と触れ合う施設を訪問し、読書マップの趣旨に賛同していただき、掲載許可をもらいました。 - これらの取組の結果、読書活動推進にかかる連携施設数は1施設増加し25施設となりました。 1冊の絵本を人から人へと旅をさせることで、絵本でつながる新しい地域コミュニティを創造することを目的とした、「まちだ旅する絵本」に協力し、中央図書館での展示とイベントを実施しました。また、大地沢青少年センターへ移動図書館を出張運行し、資料の貸出・閲覧やおはなし会を実施しました。これらの連携した取り組みを実施することで、普段図書館を利用されない方へも本と触れ合う場所の創出をしました。
達成状況（指標②）	B 目標を達成した
取組状況（指標②）	- 掲載施設からの依頼に基づき、読書マップHPの内容を更新しました。 2022年度に予定している読書マップの更新に向け、想定される掲載箇所数や掲載内容、レイアウトについて検討しました。
課題	- 読書活動を推進している連携施設や読書普及活動に取り組んでいる個人や団体と協力した取り組みについて、継続して検討する必要があります。 - 読書マップの内容を充実させるため、継続して情報を収集して増やしていく必要があります。
今後の取組の方向性	- 読書活動を推進している連携施設や読書普及活動に取り組んでいる個人や団体と連携したイベント等について幅広く検討します。 - 市民に広く情報を求め、改定版の読書マップを作成します。

■取組5-3 文化財の保存と活用環境の整備【◇】	文化財係
--------------------------	------

事業概要	発掘調査や環境整備によって、牢場遺跡・稲荷山遺跡・八幡平遺跡からなる高ヶ坂石器時代遺跡を維持保存できるようにし、文化財の魅力をより広く伝えられるよう積極的に公開活用します。				
これまでの取組	遺跡整備工事、現場公開を各年度実施しました。 2016年度：稲荷山遺跡工事・公開、八幡平遺跡工事 2017年度：牢場遺跡工事・公開 2018年度：牢場遺跡史跡公園用地買収、牢場遺跡工事、八幡平遺跡工事				
活動指標	指標		現状値（2017年度）		目標値（2023年度）
	高ヶ坂石器時代遺跡整備進捗		整備着手		八幡平遺跡整備工事、牢場遺跡買収地整備工事、ガイダンス施設基本設計
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	八幡平遺跡整備工事	八幡平遺跡整備工事、牢場遺跡買収地設計	八幡平遺跡公開・見学会実施	高ヶ坂石器時代遺跡見学会実施	八幡平遺跡整備工事、牢場遺跡買収地整備工事、ガイダンス施設
年度目標	八幡平遺跡整備工事	牢場遺跡設計 八幡平遺跡整備	八幡平遺跡公開・見学会実施	牢場遺跡整備 ガイダンス施設基本計画	ガイダンス施設基本設計、展示基本設計

<2021年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	・八幡平遺跡の一般公開を4月1日から開始しました。 ・11月に開催されたまちだ〇ごと大作戦*「縄文フェスティバル」において、「縄文の街 町田」講習会と八幡平遺跡ガイドツアーを実施しました。
課題	・文化財保護に対する市民の理解を得るため、積極的な情報発信により遺跡の認知度を高める必要があります。 ・整備事業は、国や都からの補助金の採択状況によって、工事の内容等を再検討する必要があります。
今後の取組の方向性	・八幡平遺跡の整備工事（植栽等）を実施します。 ・2018年度に取得した牢場遺跡内の土地の整備工事を実施します。 ・ホームページでの情報掲載、見学会の開催などを通じて、遺跡の魅力を発信します。

※まちだ〇ごと大作戦：主体的に「〇〇をやりたい」という思いをもった人が、新しい人と出会い、つながることで、地域活動や市民活動が盛り上がり、新たな価値が生まれ、地域や町田の活力を高めていく取り組み。

■取組5-4 歴史・文化資源の調査・研究・保存	自由民権資料館
-------------------------	---------

事業概要	所在調査・探索により発見された史料、寄贈・寄託等の申し出がある市域の各家等に残る史料を整理して、半永久的な学習・研究資源とするために保存環境を整えます。また、整理した史料は、利用者の希望に応え、展示や刊行物に還元できるよう目録を作成します。				
これまでの取組	市民ボランティアや大学等との協働により史料整理を行い、新たな史料の寄贈・寄託を受け入れながら仮目録の作成を進めています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①史料整理数（累計）		42,000点	67,000点	
	②目録作成点数		0件	3件目着手	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	史料の寄贈・寄託の受入れ、史料整理				
	史料目録作成（1件目）		史料目録作成（2件目）		史料目録作成（3件目）
年度目標（指標①）	47,000点	52,000点	57,000点	62,000点	67,000点
年度目標（指標②）	1件目 作成作業	1件目 作成完了	2件目 作成作業	2件目 作成完了	3件目 作成作業

<2021年度の事業実績>

達成状況（指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標①）	- 市民ボランティアや大学等との協働作業などで史料整理を進め、計約7,500点の史料整理を行い、計約56,500点完了しました。 「浪江虔関係史料」、「野津田町・石坂家文書」、「小川・細野家文書」、「つくし野・山下家文書」等の整理作業を進めています。
達成状況（指標②）	D 目標に達しなかった
取組状況（指標②）	「家永三郎文庫」の目録作成を予定していましたが、重要資料の整理を優先し、作業を延期しました。
課題	市史編さんに向けて、市域の重要史料の整理に取り組む必要があります。
今後の取組の方向性	重要史料群（「野津田町・河井家文書」、「小川・細野家文書」、「小野路町・細野家文書」、「相原町・青木家文書」）の整理を優先的にを行います。

■取組5-5 図書館利用者の利便性の向上	図書館
----------------------	-----

事業概要	インターネットやスマートフォンの普及、書籍のデジタル化により市民の読書スタイルは多様化しています。図書館に来館しなくても市民が読書をする機会が増えるよう、電子書籍の導入を目指します。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	電子書籍サービスの導入		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	先進事例の研究調査・ 補助金の調査・ 民間活力手法導入検討		導入のための仕様作成と 実施に向けた準備		実施
年度目標	調査	検討	仕様作成	実施準備	実施

<2021年度の事業実績>

達成状況	C おおむね目標を達成した
取組状況	- 電子書籍サービス提供を柱とするデジタルデバйд解消事業が東京都の「子供・長寿・居場所区市町村包括補助事業」の補助金交付対象となりました。 - 電子書籍サービスの導入に向け、先行自治体の導入事例の調査を行いました。 - 電子書籍サービスの仕様作成に向け、調査を行いました。
課題	- 電子書籍サービスの早期導入に向け、仕様を完成させる必要があります。 - 電子書籍サービス導入による新規利用者に加え、従来の利用者にも支持されるような蔵書の構築や、PR事業の実施をする必要があります。
今後の取組の方向性	- 電子書籍サービスの仕様を完成させます。 - 電子書籍サービスのターゲット層を想定し、利用したくなるコンテンツ構成となるような収集方針の作成と、具体的な購入の検討を行います。 - 電子書籍サービスが多くの市民の暮らしに有益である事をアピールする、PR事業の検討を行います。

■取組5-6 地域資料の活用の推進	図書館
-------------------	-----

事業概要	現在、紙の媒体で管理されている地域資料は、地域活動を行っていく上で重要な資料です。これらを積極的に活用できるよう、これまで蓄積してきた地域資料のデジタルアーカイブ*化を進めます。				
これまでの取組	未実施				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	地域資料のデジタルアーカイブ化の推進		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	地域資料活用のための計画作成	デジタル化対象資料の整理	イメージデータの作成		段階的な公開
年度目標	検討	整理	データ作成	データ作成	実施

*デジタルアーカイブ：電子図書館をはじめ、作品、文化財その他の情報をデジタル化して収集・保存・公開する活動や場の総称。

<2021年度の事業実績>

達成状況	D 目標に達しなかった
取組状況	・町田市立図書館での地域資料デジタルアーカイブ化の考え方をまとめました。 ・2020年度に公開済みの図書館作成資料の3点に追加する形として、中央図書館開館当時の資料「夢いっぱい」、「町田市立中央図書館」の2点を図書館ホームページに掲載しました。
課題	・デジタル化資料の公開方法について、他システムでの公開も含め検討する必要があります。 ・同様の資料を公開する他部署と公開する資料の範囲について調整する必要があります。 ・デジタル化資料に限らず地域資料が広く活用できることをPRし、デジタル化の必要性を周知する必要があります。
今後の取組の方向性	・デジタル化資料の公開方法を検討し、決定します。 ・他システムで同様の資料を公開する他部署と調整を行い、図書館が公開する資料の範囲を決定します。またリンクや紹介など、他システムの資料にも容易にアクセスできるように検討します。 ・地域資料を利用したくなる、有用であることをPR出来るような事業の検討をします。

■取組5-7 市民のニーズに合った図書館事業の実施	図書館
---------------------------	-----

事業概要	図書館全館で利用者アンケート調査を実施し、図書館利用者のニーズを把握して、図書館サービスの改善に役立てます。				
これまでの取組	図書館全館での利用者アンケートを2009年度から3回実施しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	図書館利用者アンケートの実施		未実施	実施	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	アンケート実施準備	アンケート実施と公表	事業の評価と改善		次期アンケート実施準備
年度目標	検討	実施	活用	活用	検討

<2021年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	利用者アンケートの調査結果から、以下の市民ニーズが高いサービスの実施と準備を行いました。 ・3月から中央図書館でWi-Fiサービスの提供を東京都の補助金を利用して始めました。 ・2022年度から指定管理者制度を導入する鶴川駅前図書館の開館日時拡大やWi-Fiサービス提供、資料の消毒機設置のための準備を行いました。 ・2022年度から電子書籍サービスを提供する準備を行いました。
課題	・図書館利用者だけでなく、図書館を利用していない市民ニーズも把握することが必要です。 ・開館日時拡大やWi-Fiサービス提供、資料の消毒機設置は一部の図書館に導入するため、中央図書館や地域図書館へのサービス拡大についてはしっかり検証していく必要があります。
今後の取組の方向性	・図書館を利用していない市民ニーズを把握するため、無作為抽出による市民意識調査を実施していきます。 ・鶴川駅前図書館の指定管理者が毎年実施する利用者アンケートに併せて、図書館全体でも同様に利用者アンケートを実施します。

■取組5-8 町田の文学の継承	文学館
-----------------	-----

事業概要	継続的に収集してきた町田市の文学的財産である町田ゆかりの作家の貴重な資料を、適切に整理・保存・研究し、研究の成果を広く市民が利用できるよう公開します。また、これまでに蓄積した情報や資料を継承していくための図録や目録等を作成します。			
これまでの取組	町田ゆかりの作家の資料を収集・保存・研究し、公開しています。毎年、展覧会の成果をまとめた図録を作成しています。			
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	①貴重資料の公開回数		未実施	年4回
	②図録や目録等の作成件数		1件	2件
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	公開（試行）調査	検証・調査	公開・調査	
	図録等の刊行（年1件）			
			目録等の企画・検討	図録等の刊行（年2件）
年度目標（指標①）	公開（試行）	検証	公開（年2回）	公開（年2回）
年度目標（指標②）	1件	1件	1件	2件

<2021年度の事業実績>

達成状況（指標①）	B 目標を達成した
取組状況（指標①）	・ポケふた設置一周年を記念した「ポケふたミニ展示」を皮切りに、収蔵資料の公開を目的とした中垣ゆたか、赤瀬川原平、三井永一のミニ展示を行いました。
達成状況（指標②）	D 目標に達しなかった
取組状況（指標②）	・ZARD展では、展覧会の主旨に対応した書籍が会期に合わせて刊行されたため、図録は作成しませんでした。
課題	・公開した研究成果を蓄積し、閲覧するためのアーカイブが必要です。
今後の取組の方向性	・研究成果を公開するためのアーカイブのあり方を検討します。

■取組5-9 文学財産の保存	文学館
----------------	-----

事業概要	町田市の文学的財産である町田ゆかりの作家の原稿、色紙、絵画等の特別資料を後世に残し、市民に継承できるよう適切に保存します。				
これまでの取組	町田ゆかりの作家の貴重図書や貴重雑誌、特別資料（原稿、色紙、絵画等）を収集し、整理、登録しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）		目標値（2023年度）
	特別資料の登録数（累計）		575点		1,450点
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	特別資料の収集				
	特別資料の整理・登録			整理計画の作成	特別資料の整理・登録
		整理計画の作成	特別資料の整理・登録		
年度目標	850点	1,000点	1,150点	1,300点	1,450点

<2021年度の事業実績>

達成状況	C おおむね目標を達成した
取組状況	・2020年度に新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う臨時休館を利用して資料整理に注力した蓄積により、登録件数は累計1,955点となりました。
課題	・継続的に資料整理・登録を行う必要があります。 ・定期的に在庫調査を行う必要があります。
今後の取組の方向性	・備品の現況確認に沿って 定期的に資料の管理を行います。